

# 福音の園だより

【第二十一号 二〇〇六年九月 七日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

## 紀行文 モンゴル見聞録(その2)

M・S

兄弟や親族が近くに住んでいるので「老人施設」という概念はまだないのだろうと思われる。又、国の福祉政策も、そこまで手が届いていないようだ。ちなみに、六五才以上の老人の人口比は、三、五%にすぎず、二九才以下の人口比は、六四、四%である。

私たちは、孤児院を訪ねるチャンスがあった。首都では貧困や家庭崩壊の増加により、捨てられる幼児が増えて、孤児の数は、五千人を越えている。しかし、急増した孤児を収容する施設はどうかといえば、国立の孤児院は一ヶ所、市立が一ヶ所。あとはすべて私立で、外国人の援助によるものと、キリスト教関係による施設である。

訪問した孤児院は、日本人がNPO法人を立ち上げ、善意で運営している。スタッフは、女性園長(保育士)と、若い女性二人、男性一人の四人。収容児は、三〜六才児が五人。4LDKのアパートの一室に、その孤児院があった。部屋に通されると、かわいい小さな靴が並べて置かれている。絨毯が敷かれ、ミッキーマウスの模様のカーテンが

掛けられた部屋は清潔で、一般家庭と変わらない暖かい雰囲気だった。お茶をこちそうになり、ひと息入れていると、園長が何とも苦渋に満ちた表情で、「実は、数日前に大変なことが起きたのです」と言う。今年の一月に、優良施設という認可を受けたのだが、先日、福祉局の役人が来て、「四月に法の改正があり、十人以下の孤児院は認可されなくなった。ここは五人だから法にそぐわない」と、三人の子供を連れて行ってしまったというのだ。五人のうち、一人は結核のため入院中。一人は股関節脱臼のためコルセットを着けて寝たきりなので、手のかからない元気な子だけを連れて行ったという。子供たちは、この施設で一年間、園長をママと呼んで慕い、穏やかに暮らしていたので連れて行かれた先で、「帰りたいよー」、「ママ、はやく迎えに来て」と泣いていたという。

(続く)

## ボランティアの声

### 心満たされる時間を過ごせて

爽やかな風を感じながら、玄関を入るとすぐに明るくきれいでとても温もりのある空間が印象的でした。午前のお茶の時間の後片付けをしておられるご利用者さんの姿、散歩の際、シルバークーを交互に押ししているお姿、手をつなぎ歩いておられるときの表情がとても自然的で楽しんでおられるのを感じました。ホームで安心して過ごせる環境がご利用者の方の穏やかな表情に表れているのだと感じました。短時間でしたが、私たちボランティアを快く受け入れて下さったこと、とても心を満たされる時間を過ごさせていただき感謝いたします。

(日高市 N・W)

## スタッフ紹介

### 利用者様の笑顔が見たくて

昨年、七月に勤めさせて頂いてから一年が過ぎました。最初の頃の私は「認知症・高齢者」の方々の理解し難い言動や行動が多くあり、戸惑いと反省の毎日だった様な気が致します。

最近では、利用者様と冗談を言ったり、屋上で一緒に歌を歌ったり、お天気の良い日はさくら堤団地内や公園に散歩に行き、地域の方々に声を掛けて頂き草花のお話をしたり、食堂でリハビリ体操やボール遊びをして汗をかいたり、の毎日です。この一年間、利用者様の笑顔が見たくて、笑い声が聞きたくてお世話をさせて頂いた様に思います。私たちスタッフが楽しく働いていれば、きっと利用者様も安心して楽しい生活を送って下さる…。そう信じてこれからもこの仕事に従事していきたいと思っております。

(二階介護職 長澤 きつ子)

## 御礼 スイートコーン・メロン・カンロ

F・T様(北海道・共和町)

## バザー開催へのお願ひ

地域の方々に向けた「開園二周年記念バザー」を、左記のとおり開催いたします。

日時・十月二日(土)、九時半〜十一時半

場所・屋内(日用品、喫茶コーナー、他)

屋外(寄せ植え鉢即売、焼き芋、他)

タオル・衣類(新品)・日用品(保存のきく物)など、ご自宅で眠っているバザー用の家庭用品がございましたら、ご協力をお願いいたします。

(グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳)